

・里山を守るために

大切な松を松くい虫被害から守るために



一般的に言われている「松くい虫」とは、正式には「マツ材線虫病」と呼ばれています。マツノザイセンチュウという「線虫」が松を枯らす病原で、その線虫をマツノマダラカミキリという「昆虫」が媒介する伝染病のことです。

近年、市内では山林だけではなく、平野部の築地松や庭松にも松くい虫被害が拡大してきています。

そこで、大切な松を守るための方法や松が枯れた場合の対応を紹介します。

「大切な松を松くい虫被害から

守るためには、どうしたらよいか？」

松くい虫被害から松を守るためには、「薬剤地上散布」と「薬剤樹幹注入」の2つの方法があります。それぞれ施行時期が異なりますので、注意が必要です。

「松くい虫被害で松が枯れた場合、

どうしたらよいか？」

松くい虫で、枯れた木を放っておくと、その周りの木にも伝染し、枯れが広がってしまいます。被害拡大を防ぐためにも、伐り倒し、できる限り処分を行ってください。

松くい虫被害など詳しくは、森林政策課、森林組合または造園業者等におたずねください。

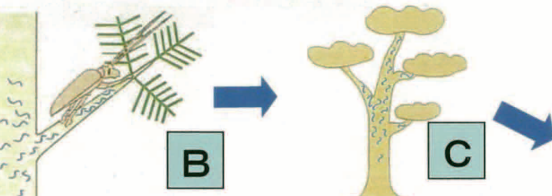


◀マツノザイセンチュウ

マツノマダラカミキリ▶

松くい虫被害発生メカニズム

カミキリは健全なマツに飛んでいき、枝を食べる。このとき線虫はカミキリから離脱してかみ傷からマツ樹体内に侵入する。



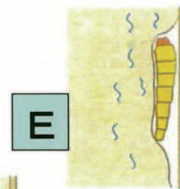
線虫の感染によってマツは衰弱・枯死以後、線虫は材の中で増殖をくり返す



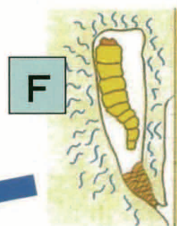
発病木にカミキリ産卵 7～8月



ふ化した幼虫は内樹皮、材表面を食べて成長する



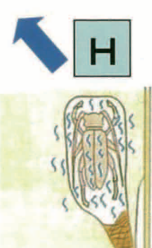
成長したカミキリ幼虫は材中へくい進んで越冬。線虫は2月を過ぎると幼虫周囲の材に集まる



5～6月にカミキリはさなぎになる



線虫を保持して被害木からカミキリ脱出 6～7月



さなぎから羽化して成虫になったとき線虫はカミキリの体内に乗り移る

市では、築地松を含めた総合的な松くい虫対策の情報提供を行うことを目的に、4月から松くい虫被害対策専用ホームページ(<http://www.matsukui-izumo.jp>)を開設しています。

森林病害虫から森林

ナラ枯れ被害の拡大防止に向けて

被害木の早期発見と予防にご協力をお願いします

近年、市内でもコナラなどが集団で枯れる「ナラ枯れ」の被害が発生しています。

「ナラ枯れ（正式名称…ブナ科樹木萎凋病）」とは、ナラ類、シイ・カシ類の樹木を枯らす病原菌と、その病原菌を媒介する昆虫による「樹木の伝染病」のことです。病原菌は「ナラ菌（ラファエリア菌）」と呼ばれる糸状菌（カビ）の仲間、媒介昆虫は体長5ミリメートルほどの甲虫類である、「カシノナガキクムシ」です。このメスの背中（前胸背）には、「菌のう」と呼ばれる貯蔵器官があり、この「菌のう」に「ナラ菌」を入れて、被害木から健全木へと運びます。

ナラ枯れ被害木が多数発生した地域の駆除は極めて困難となります。しかし、被害の初期段階に駆除を実施すれば、被害の拡大を抑制することができます。そのためにも、被害木の早期発見が重要となります。「ナラ枯れかな？」「ナラ枯れに似ているけど」など、ナラ枯れの疑いのある木を見かけたら、森林政策課まで連絡してください。

ナラ枯れ被害の特徴

- ◆ 紅葉時期ではないのに葉の色が変わっている
- ◆ 被害を受ける樹種は、コナラ、ミズナラなど
- ◆ 太い木に被害が多い
- ◆ 木の根元に多量のフラス（木くず＋虫糞）がたまっている
- ◆ 木の幹に1・5ミリメートル程度の穴が多数開いている

右の項目にあてはまる場合、「ナラ枯れ」の可能性があります。



被害木の根元にたまったフラスの様子（乙立町）
（平成24年11月撮影）

出雲市樹医センターにご相談ください

出雲市樹医センターには、庭木や築地松などが森林病害虫被害を受けたときの診断や、防除方法などの助言を行う「樹医」がいます。専門知識を持った樹医が無料で診断・助言を行います。樹木の様子がおかしいと感じたら、お気軽にご相談ください。

【おたすね】出雲地区森林組合内 出雲市樹医センター
☎22-6497（月～金 8時30分～17時）

おたすね／森林政策課 ☎21-6996